

産地戦略

実施主体 諏訪園芸振興協議会
 都道府県 長野県
 対象地域 茅野市、富士見町、原村
 対象品目 露地アブラナ属野菜（ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ）

実施期間 令和6～10年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

長野県諏訪地域は、冷涼な気候を活かしたブロッコリー等アブラナ属野菜の生産が盛んであるが、近年は土壌病害虫である根こぶ病やテンサイシストセンチュウ（以下「H s」）の発生により、生産が不安定になっており、化学農薬の使用量が増加している。そこで、根こぶ病、H sに効果がある捕獲作物（こぶ減り大根）を導入して、化学農薬のみによらない持続可能な栽培体系を普及する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名	農薬による 土壌消毒		ブロッコリー、キャベツ等作付											
技術名													農薬を使用した慣行栽培	

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	195	▶ 220	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	30	▶ 32	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	32	▶ 38	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	30	▶ 32	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	Hs対策として土壌くん蒸剤や粒剤、根こぶ病対策として殺菌剤を散布	▶ 捕獲作物の導入	土壌くん蒸剤及び殺菌剤の削減
省力	捕獲作物導入の省力化技術未導入	▶ ドローンを活用した根こぶ病捕獲作物の播種作業	播種にかかる作業時間の短縮
環境 省力	菌密度判定未導入	▶ 根こぶ病菌密度測定によるリスク判定	防除回数の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	農薬散布回数の削減（回）	1	▶ 0	
省力	播種作業にかかる作業時間の短縮	10分/10a	▶ 2分/10a	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証した「捕獲作物の導入による化学農薬に頼らない技術」と「ドローン施肥による省力化技術」を組み合わせた栽培体系について広く情報発信を行い、産地における環境負荷軽減と作業の省力化に関する意識の向上を図るとともに、当該アプラナ科産地の持続的発展を目指す。

関係者の役割

関係者名	長野県 (普及組織：諏訪農業農村支援センター)	JA信州諏訪	市町村	
役割	JA等と連携した栽培マニュアルの活用による技術指導、グリーンな栽培体系の普及推進	県と連携した栽培マニュアルの活用による技術指導、グリーンな栽培体系の普及推進	農業者との調整	